（別紙３）

公表　事業所における自己評価総括表

○事業所名	wacca			
○保護者評価実施期間	令和7年　5月　15日	～	令和7年　6月　20日	
○保護者評価有効回答数	（対象者数）	49世帯	（回答者数）	39票
○従業者評価実施期間	令和7年　5月　15日	～	令和7年　6月　20日	
○従業者評価有効回答数	（対象者数）	15名	（回答者数）	15名
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年　7月　20日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	活動内容が固定化せず、様々な取り組みを行えていること。	夏休みなどの長期休暇中の活動内容については保護者に行ってほしい場所を伺うようにしている。	引き続き取り組んでいく。
2	不登校の利用児童に対して臨機応変に対応を行っていること。	利用児童に合わせて送迎の時間を調整し、急な送迎時間の変更にも対応している。 また、配慮が必要な利用児童に関しても、個々に合わせた対応が出来るようにしている。	利用児童の将来像について保護者とよく話し合い、どういった対応をしていくか等状況に合わせて対応をしていく。
3	他事業所や地域との連携や交流が広がっていること。	他事業所との合同イベントを実施。社会福祉協議会と繋がり、地域イベントに参加。また、近くの大学の学祭や音楽イベントに参加する等の地域交流に取り組んでいる。	引き続き取り組んでいく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	学童などとの交流の場がないこと。地域交流の活動が宣伝出来ていないこと。	学童との繋がりや連携が不足している為。コミュニティセンターや児童館などの活用が出来ていない為。また、地域のイベントに参加した際に宣伝や周知が不足しているため。	学童との連携を図るため、見学を行い、繋がりを強化する。 コミュニティセンター、児童館等での活動を検討する。 地域イベントに参加する際は事前に伝え、地域交流があることを保護者に伝える。
2	日々のやり取りで利用児童についての発達の状況や課題については話が出来ているが、こちらからの育児に関する助言等の支援が不十分と感じさせてしまっていること。	保護者が困っていることへのアプローチが足りていないため。	保護者とのやり取りを綿密に行い、事業所で行っている利用児童の課題に対してのアプローチ方法をお伝えする。
3	waccaとしての保護者懇親会が開催できていないこと。	会社全体として保護者懇親会を開催しているため、それで十分だと判断していた為。	今年は9月に保護者懇親会を開催予定である。その反応を踏まえ、今後の保護者懇親会についても検討していく。